

私の記憶

メングリョレミリン

子供のころ、私は友人や近所の人々や、親族に囲まれて色鮮やかで有意義な生活を送っていました。近くに川も田んぼもありました。

植物をうえ、動物を飼うのは生活の手段です。

収穫の日はもっとも幸せな日です。父と兄弟

は収穫をし、母はおやつを作ります。収穫が

終われば兄弟で遊びました。川の側で母の作

った料理と父の刈いた魚をバナナ葉において

いっしょに手で食べました。

夏は好きな季節です。学校も休みだしあちこ

ちからのいところもたずねて来ました。バナナ

の幹で小さい船を作って順番に乗りました。

風が強ければ手作りの凧を飛ばしました。「

木登りをするな。カラバオ(動物)に乗るな。

男っぽい遊びをするな」と父によく言われま

した。かくれんぼ、しゃぼんだま、どろ遊び

とても楽しかったです。

あの頃はアニメが大人気でうちにテレビが

なかつたので近所の家のテレビを窓から立っ  
て見ました。母がお金をためてテレビを買っ  
てくれました。ノートの後に好きなアニメの  
キャラクターを描いたら先生にしかられまし  
た。  
祖父母は私に好きな食べ物を買ってくれま  
した。たとえばチョコレート、アイスクリー  
ム、果物などです。寝る前に大人からこわく  
て面白い話を聞いたり、歌を歌う夜もありま  
す。私は甘えんぼうなまごでした。  
時がすぎて自分の家族ができました。子供  
達もアニメが好きになりました。「君の名」や  
「ドライモン」が私と子供達を泣せたことを  
はっきり覚えています。娘が「ママ、もしド  
ライモンのポケットが本当にあつたら何がほ  
しい？」と私に聞きました。今はそれが何か  
わかっていません。それは「どこでもドア」と  
タイムマシン」です。子供達をつれて昔にも  
どり祖父母に子供達を紹介します。そして「  
いろいろありがとう、私の記憶の中でおい

さんとおばあさんからもらった助言や教えは  
ずっと生きています」と伝えたいです。もう  
一つ「どこでもドア」があればいつでもどこ  
でも行きたいところに行けます。はなればな  
れの子供達と両親にもドアを開ければすぐに  
会えます。